

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00996

研究課題名(和文) ポスト・モンゴル期中東の知的ネットワークとアラビア語歴史叙述

研究課題名(英文) Intellectual Networks and Arabic Historiography in post-Mongol Middle East

研究代表者

伊藤 隆郎 (Ito, Takao)

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：60464260

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：第一に、ポスト・モンゴル期(14世紀半ばから16世紀初め)のアラビア語歴史叙述、特にマムルーク朝で著された年代記や伝記集に見られる黒死病の記述やイブン・ハルドゥーンの伝記を取り上げ、歴史書相互の関係、および当時の知的ネットワークについて検討した。その結果、西方と東方アラブ世界との間で歴史叙述上の差があった一方で、マクリージーのように、地理的境界を越えて幅広い関心を持ち、「異国人」や「異国」に関する情報を収集する著者もいたことが明らかとなった。第二に、マクリージーの年代記『道程』の一部(741-762/1341-61年)を校訂した。英語訳注と索引を付して近く出版する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ポスト・モンゴル期に、特にマムルーク朝領内で多数産み出された歴史書の相互関係について、黒死病の記述やイブン・ハルドゥーンの伝記などを取り上げて検討した。その結果、エジプト・シリアの東方と、マグリブ・アンダルスの西方とで、主に参照される文献に差が見られる一方、マクリージーのように地理的境界を越えて幅広い関心をもつ著者がいたことが明らかになった。この成果は、同時期のアラビア語歴史叙述研究、知識人および知的ネットワーク研究に資するものである。また、出版予定の『道程』の英語訳注付き批判的校訂テキストは、マムルーク朝時代史研究だけでなく、14世紀後半の西アジア、地中海世界の研究のための基盤となる。

研究成果の概要(英文)：First, this study has examined the accounts of the Black Death and the biography of the most famous Muslim historian Ibn Khaldun (732-808/1332-1406) in contemporary and near-contemporary Arabic historiography, particularly the chronicles and the biographical dictionaries produced in the Mamluk sultanate to shed light on their relations to each other and the intellectual networks in post-Mongol Middle East (from the middle of the 8th/14th century to the early 10th/16th century). While there was a gap in the historiography of the western and eastern Arab world, some authors such as the major Mamluk historian al-Maqrizi (766-845/1364-1442) had wide-ranging interests beyond the geographical boundaries and collected information on the “foreigners” and “foreign” events. Second, the part of 741-762/1341-61 of al-Maqrizi's chronicle al-Suluk has been edited, based on 14 manuscripts. After making the English translation, annotation and indices, it will be published in near future.

研究分野：アラブ史

キーワード：アラビア語歴史叙述 マムルーク朝 ポスト・モンゴル期

1. 研究開始当初の背景

マムルーク朝時代（1250-1517年）のエジプト、シリアでは多数のアラビア語史書が産み出されたが、それらについての史料批判は十分には行われていない。そもそも、これまでに刊行された歴史書の校訂の多くが杜撰であり、諸写本（手稿本）を精査・校合した上で作成され、注と索引を完備した信頼できる批判的校訂テキストの数はごく限られている。また、個々の歴史書の著者の立場や依拠した情報源、歴史書の間に見られる引用・抜粋などの諸関係が、多くの点で未解明のままである。

さらに、マムルーク朝の歴史叙述に関する従来の研究では、どの歴史書がマムルーク朝領内に関するオリジナルで詳細な情報を含んでいるかを確定することに主眼が置かれてきた。通説では、ポスト・モンゴル期（14世紀半ばから16世紀初頭）には地方史や王朝史に歴史叙述の比重が移り、地域性が高まったとされる。しかし、「地方史」や「王朝史」に分類される歴史書にも、マムルーク朝領外＝異国に関する情報が豊富に含まれている。これら異国に関する情報に焦点をあてることにより、従来の研究とは異なる視点から歴史書間の諸関係を考察できるだけでなく、ポスト・モンゴル期中東の知的ネットワーク（知識人の交流範囲、情報網）や知識人の世界認識を解明することにもつながる。

2. 研究の目的

上記の背景をもとに、本研究ではマムルーク朝の代表的な歴史家マクリージー（766-845/1364-1442年）の年代記『道程』を中心に、741-784/1341-82年に関するアラビア語の歴史叙述について検討し、ポスト・モンゴル期中東における知的ネットワークを解明することを目指した。

3. 研究の方法

本研究では、具体的に以下のように研究を進めた。

- (1) 『道程』および他のアラビア語史書の諸写本の調査・研究：『道程』および他のアラビア語史書（マクリージーの同時代人であるアイニーやイブン・ハジャルの年代記など）の諸写本（手稿本）の調査・研究。
- (2) 『道程』の741-784/1341-82年の批判的校訂テキスト、英語訳注、索引の作成：『道程』の校訂本は既に出版されているが、僅か2系統の写本のみに基づいたもので、注も索引も不十分であり、批判的校訂テキストの出版が必要である。741-784/1341-82年を取り上げる理由は、この時期について『道程』が現存の歴史書の中で最も詳細な記録を残しているからである。
- (3) 『道程』と他のアラビア語史書との関係の解明：『道程』と他の歴史書とを比較し、それらの間の関係を解明する。
- (4) 『道程』などアラビア語史書における「異国」に関する情報と情報源の分析、ポスト・モンゴル期中東の知的ネットワークの解明：『道程』をはじめとする歴史書中のマムルーク朝領外＝異国に関する情報と情報源に焦点をあてて分析し、ポスト・モンゴル期中東の知的ネットワークを解明する。

4. 研究成果

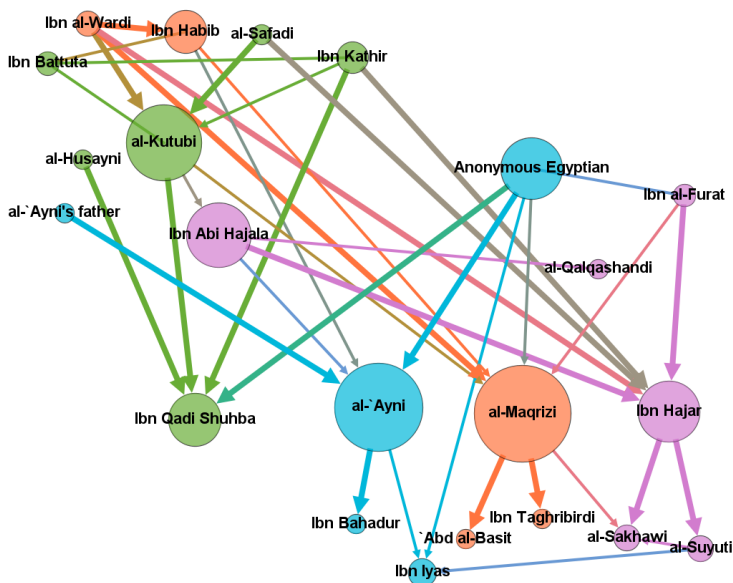
上記「研究の方法」に挙げた各研究項目における成果は次の通りである。

- (1) 『道程』および他のアラビア語史書の諸写本の調査・研究：2018年9月上旬に1週間カイロ

に滞在し、エジプト国立図書館およびアラブ連盟写本研究所で予備的な調査を行ない、翌年度以降にカイロとイスタンブルで本格的な調査をする予定だったが、コロナ禍のために結局断念せざるを得ず、Chester Beatty Library, British Library, Bibliothèque nationale de France などヨーロッパの図書館に所蔵される手稿本の複写を取り寄せて検討するのにとどまった。今後の課題であるが、この間に British Library 所蔵の無名氏の手稿本の著者をつきとめ、国際学会で報告した (“A Forgotten Chronicle and the ‘Syrian School’ of Historical Writing in 9th-/15th-Century Damascus”)。

(2) 『道程』の 741–784/1341–82 年の批判的校訂テキスト、英語訳注、索引の作成：既に入手済みの手稿本 14 点に基づいて 741–762/1341–61 年分を第一分冊として出版するべく校訂テキストを作成した。ただし、英語訳注と索引はまだ作成中であり、できるだけ早く完成させなくてはならない。また、763–784/1362–82 年分を第二分冊として続けて刊行できるように作業を急がなくてはならない。

(3) 『道程』と他のアラビア語史書との関係の解明：749/1348–49 年の黒死病についてマムルーク朝で著された歴史書にどのように記されているかを検討した論文「マムルーク朝の歴史叙述における黒死病」を発表した。諸史書（著者）間関係は下図のように表せる。また、『道程』の記述が最も詳細ではあるが、典拠不明な情報を多く含んでいることを明らかにし、上記(2)の成果に基づいて、『道程』の刊本や翻訳の問題点を指摘した。



(4) 『道程』などアラビア語史書における「異国」に関する情報と情報源の分析、ポスト・モンゴル期中東の知的ネットワークの解明：最も有名なイスラーム教徒の歴史家であるイブン・ハルドゥーン（732–808/1332–1406 年）について同時代および 10/16 世紀までの歴史家たちがどのように記しているかを検討し、マグリブ・アンダルスの西方の歴史家たちは主に西方で著された文献を、エジプト・シリアの東方の歴史家たちは主に東方で著された文献をそれぞれ参照していたこと等を明らかにした (“Writing the Biography of Ibn Khaldun”)。また、マクリージーが伝記集や『道程』等で「アフリカ人」たちを何に基づいてどのように記述しているかを検討した論文を論文集に寄稿したほか（出版時期は不明）、オスマン朝初期の君主たち、同時代の西欧それぞれがマムルーク朝の歴史書でどのように描かれているかを検討した論文を準備中であり、今後もこの方面での研究を継続するつもりである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Takao Ito	4. 巻 -
2. 論文標題 Awlad al-nas during and after the Reign of al-Nasir Hasan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Anna Kollaps (ed.), Mamluk Descendants: In Search for the awlad al-nas	6. 最初と最後の頁 195-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤隆郎	4. 巻 94
2. 論文標題 マムルーク朝の歴史叙述における黒死病	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takao Ito	4. 巻 -
2. 論文標題 al-Nasir Hasan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Encyclopaedia of Islam, THREE	6. 最初と最後の頁 123-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 谷口淳一, 伊藤隆郎, ほか	4. 巻 79
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注(12)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 21-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takao Ito	4. 巻 -
2. 論文標題 Careers and Activities of mamluk Traders: Preliminary Prosopographical Research	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 S. Conermann & T. Miura (eds.), Studies on the History and Culture of the Mamluk Sultanate (1250-1517), V&R Unipress	6. 最初と最後の頁 229-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takao Ito	4. 巻 -
2. 論文標題 Writing the Biography of Ibn Khaldun	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 M. Fierro & M. Penelas (eds.), The Maghrib in the Mashriq: Knowledge, Travel and Identity, De Gruyter	6. 最初と最後の頁 513-535
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/9783110713305-019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷口淳一、近藤真美、伊藤隆郎ほか	4. 巻 78
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注(11)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 115-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷口淳一、近藤真美、伊藤隆郎ほか	4. 巻 77
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注(10)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takao Ito	4. 巻 54
2. 論文標題 The Last Mamluk Princess, Her Endowment, and Her Family History	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 55-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Igarashi and Takao Ito	4. 巻 54
2. 論文標題 Introduction: An Overview of Recent Studies on Women and Family in Mamluk Society	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷口淳一、近藤真美、伊藤隆郎ほか	4. 巻 76
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注(9)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 21-51(86-116)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤隆郎	4. 巻 -
2. 論文標題 フィクションのなかに実像を探そう: あるカリフの虚像と実像	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 佐藤昇(編)『歴史の見方・考え方』(山川出版社)	6. 最初と最後の頁 78-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 伊藤隆郎、太田（塚田）絵里奈
2. 発表標題 15世紀アラビア語伝記集のデジタル解析に向けて
3. 学会等名 中東・イスラームの歴史と歴史空間の可視化分析
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 Amirs and Iqta` Holdings in Late 9th-/15th-Century Egypt
3. 学会等名 Strong Asymmetries in Social Relations Compared: The Mamluk Sultanate, Medieval Japan and Beyond
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 A Forgotten Chronicle and the "Syrian School" of Historical Writing in 9th-/15th-Century Damascus
3. 学会等名 Eighth Conference of the School of Mamluk Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤隆郎、熊倉和歌子
2. 発表標題 デジタル・ヒューマニティーズとイスラーム史研究の展望
3. 学会等名 「イスラーム信頼学」キックオフ・シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤隆郎
2. 発表標題 マシュハド・レザー廟図書館所蔵のアラビア語文書集成について
3. 学会等名 東洋史研究会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 "Awlad al-nas" during and after the reign of al-Nasir Hasan
3. 学会等名 In Search for a Hidden Group: Where are the awlad al-nas? (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 Writing a Biography of Ibn Khaldun
3. 学会等名 World Congress for Middle Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 Writing a Biography of Ibn Khaldun
3. 学会等名 2nd German-Japanese Workshop on Mamluklogy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takao Ito
2. 発表標題 Writing a Biography of Ibn Khaldun
3. 学会等名 The Maghrib in the Mashriq (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関